

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂農林高等学校

学校番号 37

I 自己評価

1 学校教育目標	①人や自然を愛する豊かな情操、次代を生き抜く健やかな心身を形成する。 ②確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自他の課題に主体的に挑戦する。 ③産業人として必要な素養を身に付け、地域社会や産業界に貢献できる。
----------	--

◇学校運営

2 評価する領域・分野	◇学校運営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	①よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念のもと、「社会に開かれた教育課程」の作成が求められている。 ②第3次教育ビジョンの重点項目「ふるさと教育」と「ICT環境の活用」の5カ年計画の2年目の実践として成果が求められている。 ③法改正により教員の働き方「時間外勤務時間月45時間、年360時間」が注目されている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	①「社会に開かれた教育課程」の作成 ②「加茂農林で学べてよかった」と思わせる教科・生徒・進路の各指導 ③時間外勤務時間の短縮の啓発と事後検証による改善を目指す。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	①校内の各分掌等において具現化し実施する。 ②学校運営協議会における意見・アドバイスを活用する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①学びの3要素を明確に示した授業改善を通し、確かな学力を身につけさせる。 ②ICT等を活用した授業の実施と研究授業による活用方法の研究を行う。 ③時間外勤務の軽減。	①学校評価アンケート「教員、学習指導」における評価の上昇 ②学校運営協議会での指導・意見 ③時間外勤務時間とストレスチェックの結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①ガイドラインに沿った新型コロナウイルス感染症対策の確実な実施 ①学校評価アンケートによる生徒、保護者の評価 ②ICT機器、デジタルコンテンツを活用した授業改革 ③働き方改革2020の実践(意識改革の啓発、事後検証)	①新たな生活習慣として対策が行われるか ①「教職員、学習指導」の評価の向上率 ②機器等活用、配信による授業支援や再開後の授業の様子 ③超過勤務時間数の動向	㊶ B C D A ㊸ C D ㊶ B C D A B ㊸ D
11 成果・課題	総合評価	
教務部主導によってオンライン授業の実践、積極的なICT機器学習に生かされた。また、保健厚生部による感染症対策についても丁寧なマニュアルが作成され、全職員の協力のもと事なきを得ている。コロナ禍の影響により生徒の精神的な部分も、教育相談を中心とした生徒指導部の活動によって支えることができた。により取り組んだオンラインでの集会・会議等について、今後検証していきたい。 働き方改革について、意識改革は出来ているが実践の部分に課題がある。	A ㊸ C D	
12 次年度に向けての改善方策案	・学校運営協議会を機能させ学校の活性化をはかる。 ・コロナ禍により取り組んだオンラインでの集会・会議等について、今後検証・活用していきたい。 ・各分掌と連携をはかり、生徒にとって有意義な学習や学校生活を考える。	

◇教育課程・学習指導

2 評価する領域・分野	◇教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>令和元年度学校アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え方や説明がわかりやすいなど、学習指導に関すること全般・・・下降気味である。→授業改善が必要である。 <p>令和元年度めいわく調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の迷惑行為のために嫌な思いをしている。→授業規律を守る指導が必要である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>1. ICT環境の活用と「わかる授業」の実施。</p> <p>(1) 公開・研究授業の実施と職員研修による授業の改善活動。</p> <p>(2) チームで取り組み、授業規律の確立を目指す。</p> <p>2. 新学習指導要領の実施に向けた教科毎のカリキュラムの計画の立案</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>授業を軸に、各部との連携を図り、チームで規律を確立する。</p> <p>外部組織への積極的な研修活動（総合教育センター、企業）</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 職員研修や研究・公開授業の実施</p> <p>(2) 授業規律のルール提示と定着を図る</p> <p>(3) ICT機器の活用から授業改善を図る</p> <p>(4) 新カリキュラムの計画を立案する</p>	<p>(1) 職員の意識（参観率）と生徒の評価（授業アンケート）は向上したか。</p> <p>(2) 各分掌・担任と連携し、授業規律の定着を図る指導を行うことができているか。めいわく調査の結果は改善されたか。</p> <p>(3) ICT機器を活用した授業が行われたか。</p> <p>(4) 学校の実情に合わせて計画することができたか。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 職員研修と公開授業の実施とその参加率	①研修の実施・参観の感想の収集	Ⓐ B C D
② 守るべき授業規律は生徒に浸透しているか	②各分掌・担任と連携し、心のアンケートなどの結果を参照	A B Ⓒ D
③ ICT機器の授業への積極的な活用	③ICTを利用した授業改善は行われているか。	Ⓐ B C D
④新カリキュラムについて各教科から素案が提出される。	④12月までに素案が提出され、今年度中の計画ができたか。	A Ⓑ C D
1 1 成果・課題	<p>○オンライン学習支援により、授業でのICTの活用状況が飛躍的に向上している。また、気象警報や感染症予防対策のためのオンライン授業が円滑に進むよう環境を整えることができた。</p> <p>○コロナ禍で対面での研修が実施できない状況であるが、Web会議システムや文書の配布により、新しい形での研修を行うことができた。</p> <p>○新カリキュラムについては大枠が決まったところであり、あとは教科ごとの科目の設定を来年度5月中に行う。</p> <p>▲授業規律の提示を行いつつ、教員相互の共通理解を図っているが、めいわく調査や三者懇談での担任への要望から、授業規律の一部の乱れが報告されている。（マンガ、私語、スマートフォン、居眠り、服装）</p>	
1 2 来年度に向けての改善方策案	<p>・来年度も「授業改善」に力を入れ、引き続きICTを利用した授業づくりを推進していく。</p> <p>・授業規律については、教育相談、各種アンケートの結果や、HRTからの聞き取りを大切にし、生徒への浸透や学校全体としての指導の徹底を図ることや、生徒へ自律を促す働きかけを行っていきたい。</p>	
	総合評価 A Ⓑ C D	

◇進路指導

2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学科試験が行われない就職先を選択したり、AO入試等で早期に安易に進路先を決めてしまう生徒が少なからず存在している。キャリア教育のより一層の充実が求められている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>「社会的・職業的な自立に必要な能力や態度」を育てるために、キャリア教育を踏まえた進路指導の充実を図る。</p> <p>①あらゆる機会を通して、基礎学力を確実に身に付けさせる。</p> <p>②主体的で意欲ある進路活動に結びつかせるための「選抜ポイント」意識させ、将来の自分の姿を具体的に思い描かせる機会を設ける。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年会、学科、各分掌と協力・連携して実施する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>①あらゆる機会を通して、基礎学力を身に付けることの重要性を認識させる。(全学年)</p> <p>②個々に応じた具体的な進路目標を持たせるために、将来の自分の姿を具体的に思い描かせる機会を設定する。(1年生)</p> <p>③学年末には具体的な進路目標を持たせることができるようにする。(2年生)</p> <p>④個々に応じた進路指導を充実させ、安易な進路を選択することのないよう努める。(3年生)</p> <p>⑤挨拶や言葉遣いの指導を通して、進路決定における「挨拶」の重要性を意識させる。</p>	<p>①進路補習、SPI学習会、面接指導等を成果に結びつけることができたか。</p> <p>②到達目標を明確にし、進路に関する思考・表現活動に働きかけたか。</p> <p>③「選抜ポイント」を意識させながら、より具体的な進路目標を持たせることができたか。</p> <p>④適性、学力、家庭環境など様々な観点から判断し最も望ましい進路選択をさせることができたか。</p> <p>⑤昨年度も挨拶ができる生徒が増加しているか。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>①進路指導に関わる行事は、ほぼ実施することができなかった。</p> <p>②情報をデータ化し、すべての職員がどこからでも利用できるようにした。</p> <p>③就職、進学の見学指導を一斉に開始し、進路に向けた意識付けを行った。</p>	<p>①進学学習会、SPI学習会等</p> <p>②求人票、求人情報、指定校推薦</p> <p>③各クラスに応じた指導とした</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
11 成果・課題	総合評価	
<p>一学期は、特に進路決定を目前にした3年生の生徒及び保護者に対し、十分な進路指導、情報提供を行うことができなかったが、3年生担任の懸命な努力と取り組みによりなんとか、就職応募先の決定に至ることができた。保護者に対する具体的な情報提供の場として、オンライン学年会を行ったが、機器操作及び方法に課題が多く、今後に備えより有効な機会となるよう工夫が必要である。</p>	<p>A B C D</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>生徒に配布されたタブレットを進路指導に利用する。(求人情報、指定校推薦入試情報、進路に関わる個人日程の入力と管理 等</p>	

◇生徒指導（教育相談）

2 領域・分野	生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	ハローモーニング等で保護者から「元気よく挨拶できない」などの意見があり、社会人としての最低限のマナーを身に付けさせる必要がある。また、めいわく調査により、授業での迷惑行為を感じている生徒が増加している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>「豊かな人間関係を築き、地域社会人として考え行動し、自らの夢に挑戦できる姿」の具現に向け、継続的な生活指導を図る。</p> <p>①命を守り生活を守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全の徹底（道路交通法を厳守する） ・生活安全の徹底（スマホ・ネットの使い方・情報モラル） <p>②生徒の自立を促す生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的自立：元気な挨拶・時間を守る・身なりを整える ・精神的自立：物事の善悪を判断できる・思いやりの心・高い人権意識 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	学科・学年会との連携及び教育相談組織の活用	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 挨拶と中心とした生徒の自主的な活動の中で、規範意識の向上と問題行動等の未然防止に取り組む。	① 生徒会・MSリーダーズ等を中心とした活動と取り組み状況が活発になっているか。	
② 教育相談を機能させ、生徒個人および集団のよりよい学校生活を実現させる。（SCの活用）	② 教育相談の存在が充分広報できたか。	
③ 交通とネットワークについて、ルールとスキルを身に付けさせる。	③ 自他の安全を意識した具体的な行動面の変容。（交通事故件数0を目指す、情報モラル違反事案0を目指す）	
④ 時間・身だしなみ・問題行動等の未然防止と対応	④ 欠席総計（800回以下）遅刻総計（300回以下）、問題行動事案件数（15件以下）	
⑤ いじめ・人権に反する言動を見逃さない。	⑤ 「いじめは、どの学校でも、どの子にも起こり得る」と認識し、危機感をもって未然防止・対応に組織的に取り組む。	
⑥ 授業規律の確立と授業巡回を取り入れた組織的な対応	⑥ 調査による授業でのめいわく行為件数	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 生徒会・MSリーダーズの取り組み状況	① 模範意識の向上と各数値の変容	A B C D
② アンケート等を活用して生徒状況の把握	② 調査の実施と活用	A B C D
③ 各講話・講習の実施と街頭指導	③ 交通事故・情報モラル違反件数	A B C D
④ 遅刻防止の呼びかけと、遅刻指導の実施	④ 問題行動事案件数・遅刻者数	A B C D
⑤ 生徒理解に基づく生活指導の展開	⑤ 調査等の対応と未然防止早期発見	A B C D
⑥ 授業巡回等組織的な取り組み	⑥ 授業でのめいわく行為件数	A B C D
11 成果課題	<p>○年間を通じて交通事故が1件であった。登下校時の安全をしっかりと守ることができた。</p> <p>○いじめ事案（3件）については、早期発見・早期対応が組織的にできた。</p> <p>△情報モラル講話、薬物乱用防止講話、交通安全講話は配信で実施した。</p> <p>●MSリーダーズ活動では満足な活動ができなかった。</p> <p>●欠席者数、遅刻者数とも目標達成することができなかった。</p> <p>●問題行動の多くが進路を決定し卒業を控えた3年生に多く見られたことが残念であった。</p>	総合評価 A B C D
12 次年度に向けての改善方策案	<p>各種アンケート調査を利用し、いじめの早期発見・対応に取り組み、安心・安全に過ごせる学校作りを目指す。様々な活動が制限される中で、効果的な行事の実施を考えていきたい。また、身だしなみや授業規律など生徒一人一人の規範意識の向上を図り、地域から必要とされる加茂農林高校生を育てていきたい。</p>	

◇農場部

2	評価する領域・分野	◇農場部		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校に入学できて良かったと思っている生徒が多く（昨年度アンケート78%）、本校の専門の学習への興味関心が高い生徒が多い。 ・保護者の本校の農業教育に対する理解も高く、好意的な評価をしていただいている。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験実習の安全 環境整備と意識改善による実験実習中の事故防止 ・専門学習の充実 各学科のプロジェクト活動の活性化と資格取得の推進 		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長を中心として各学科（学科職員全員）で取り組む。 ・科長会を通じて状況確認を適宜行うとともに、農場安全教育部を新設し、農業科職員全員で連携を図る。 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 危険箇所と事故防止策の確認 (2) 備品・薬品の管理の徹底 (3) 担い手育成事業を活用したプロジェクト活動 (4) 計画的な資格取得とアグリマイスター認証者の増加	(1) 実験実習中の安全指導について見直しと改善が図れたか (2) 備品と薬品の整理ができたか (3) 担い手育成事業に関わる各科のプロジェクトが推進できたか (4) 計画的に資格取得ができ、アグリマイスター認証者が増加したか		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①	農場会議ごとに研修会を設け、実験・実習における安全指導の見直しの実施	①実験・実習における事故の有無 安全マニュアルの見直しの進捗状況	Ⓐ B C D	
②	備品と薬品の管理記録の徹底	②備品の管理・現物実査、薬品の使用記録	A B Ⓒ D	
③	各学科の担い手育成事業に関わるプロジェクトの推進	③プロジェクト活動の推進状況	A Ⓑ C D	
④	資格取得の指導強化と意識高揚	④アグリマイスター認証者数	Ⓐ B C D	
1 1	成果 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・農場安全教育部推進の組織を新設し、安全な実験・実習の指導ができるよう定期的に研修を実施できた。安全マニュアルを全職員で見直すなど、有意義な取り組みが出来た。 ・薬品の管理はしっかり行えているが、記録簿の提出が期限通りできていない。産振備品について登録内容の把握をしっかりとする必要がある。 ・担い手育成事業はコロナに伴う休校や活動の制限により計画通りの実施が困難であったが、各科で工夫して取り組み、校内発表もできた。 ・コロナの影響で中止や延期になった資格試験が多い中、アグリマイスター認証者はゴールド2名、シルバー32名と健闘した。（一昨年比+16人） 		総合評価 A Ⓑ C D
1 2	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・農場安全教育部推進の取り組みを継続し、意識高揚と遵守事項の徹底を図る。 ・物品の登録内容の再確認を行い、学習環境の整備を行う。 ・プロジェクト活動と資格取得指導の充実を図る。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月13日

【意見・要望・評価等】

- ・感染を広めないために対策を徹底した学校運営は評価できる。今後、生徒・保護者のそれぞれの意見を踏まえて検証することが望まれる。
- ・とにかく感染防止対策が第一だったと分かった。そんな中でも生徒目線で学校は対応していたと思う。
- ・コロナ対策で整備が進んだICT機器をアフターコロナで有効に活用することが重要である。
- ・「あいさつ」は最も重要なことだと思うので、指導を継続してほしい。活動が制限されたことによる反省も多いようだが、それを来年度に生かしてほしい。
- ・生徒から明るい挨拶をされて気持ちがよい。専門高校では学ぶ目標が可視化できるため、生徒も取り組みやすい。
- ・農林系の専門高校として、農林業にかかわる職業観の醸成を図ってほしい。
- ・社会で求められる人材として、能力だけでなく、仕事に対する熱意もとても重要視されている。
- ・コロナ禍でマスクを着用しているため、アイコンタクトやおじぎなどを使ったコミュニケーションについて、専門家の指導を受けることを検討してはどうか。
- ・今年度は自粛ばかりでかわいそうだった。徐々に安全対策が確立して芸術活動等が再開できるとよい。